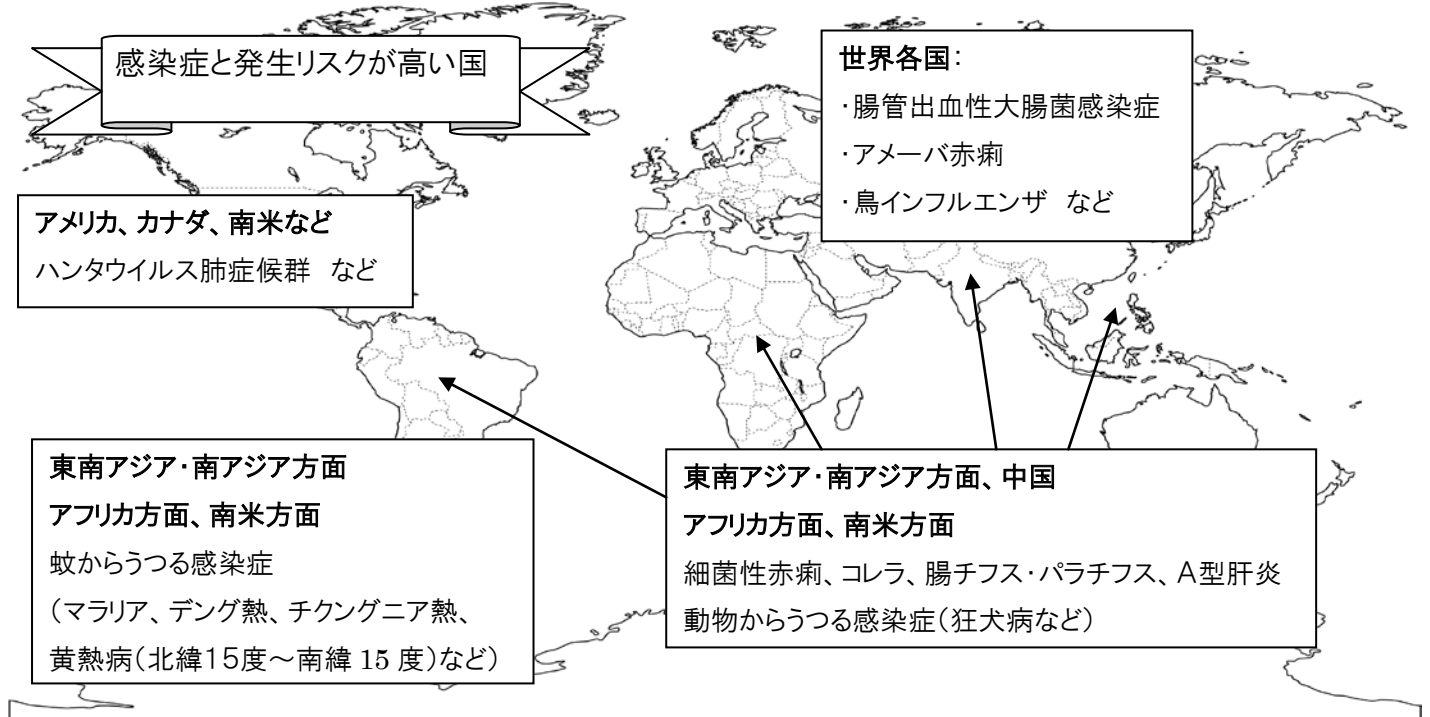


海外旅行で、感染症に気を付けましょう！



世界にはさまざまな感染症が蔓延している地域があります。
その地域へ渡航される場合は、特に注意しましょう。

特に最近では、**細菌性赤痢・A型肝炎・腸管出血性大腸菌感染症(O157等)**に注意が必要です。



海外滞在中～帰国後数日から数週間後に
発熱、下痢、おう吐、頭痛、関節痛、筋肉痛、発疹などの症状が出たら
すぐに医療機関を受診するようにしましょう。



〔人〕



感染者数	全国		横浜市	
	H22年	H23年	H22年	H23年
細菌性赤痢	235	296	9	12
A型肝炎	347	176	9	6
腸チフス・パラチフス	53	44	5	2
コレラ	11	12	0	2
腸管出血性大腸菌感染症	4,134	3,900	75	61

(国内発症例を含む)

旅行前に事前に渡航先で流行している感染症がないか確認していくことをおすすめします。



【厚生労働省検疫所ホームページ】

- 厚生労働省検疫所ホームページ
(海外で健康にお過ごしいただくための情報サイト)
<http://www.forth.go.jp/> トップページから渡航先をクリック！
- 外務省海外安全ホームページ <http://www.anzen.mofa.go.jp/>
- 横浜市保健所ホームページ (海外に渡航される方へ)
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/genre/kansensyo/abroad.html>

どこから感染するの？

海外で感染する原因は主に3つあります。

食べ物や水

細菌性赤痢、A型肝炎、腸チフス
腸管出血性大腸菌感染症 など

蚊

マラリア、デング熱、チクング
ニア熱、黄熱病、など

動物

狂犬病、鳥インフルエンザ
ハンタウイルス肺症候群 など

感染の可能性のある
動物(イヌ、サル、ネコ、
コウモリなど)にかまれた
場合はすぐに医療機関を
受診しましょう。

感染症流行地での注意点

- 生ものは食べない(生野菜、カットフルーツ、生の魚介類、しぼりたてのもの
(ミルク・アイスクリーム)など)。
- 生水は飲まない(氷入りの飲み物も避ける。
沸騰させた水、ミネラルウォーターを飲むようにする。)

- 蚊に刺されないようにする。
- 動物やその死骸、排泄物に近づいたり触ったりしない。



蚊にさされないために

長そで、長ズボンの着用、虫よけスプレー、蚊取り線香、網戸などを使用しましょう。

※デング熱に感染したあと、再び流行地に渡航し蚊に刺され、違う型のデング熱に感染すると重症型のデング出血熱になるリスクが高くなります。

その他に・・・

- 海外では麻しん(はしか)の流行地域もあります。予防接種を受けたことのない方、麻しんに対する免疫があるかわからない方は、海外旅行に行く前に予防接種を受けましょう。
- 川や湖、沼などの水辺には感染症の原因となる寄生虫などがいる可能性がありますので、流行地では素足で歩いたり、水に入ったり泳いだりすることを避けましょう。
- 最近、アラビア半島やその周辺諸国で、新種のコロナウイルスによる急性呼吸器症候群の発生が報告されています。
- 海外旅行で気を付けたい感染症の中には予防接種があるものもあります(黄熱病、A型・B型肝炎、破傷風、ポリオ、日本脳炎など)。
渡航先の流行状況を確認し、医師に相談の上、接種を検討しましょう。

帰国後体調が悪くなったら

早急に医療機関を受診しましょう。下痢などの症状がある場合、周囲の人に感染する可能性があります。受診時に ①渡航先 ②滞在期間 ③動物との接触 などを伝えてください。

【お問い合わせ先】平日 8:45～17:00 各区の福祉保健センター福祉保健課健康づくり係(市外局番:045)

青葉	978-2438	旭	954-6146	泉	800-2445	磯子	750-2445	神奈川	411-7138
金沢	788-7840	港南	847-8438	港北	540-2362	栄	894-6964	瀬谷	367-5744
都筑	948-2350	鶴見	510-1832	戸塚	866-8426	中	224-8332	西	320-8439
保土ヶ谷	334-6345	緑	930-2357	南	743-8241				

横浜市健康福祉局健康安全課(横浜市保健所) 作成年月日:平成 25 年2月 18 日

TEL 045-671-2463 Fax 045-664-7296 e-mail kf-kenkoukiki@city.yokohama.jp